ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか

5

Will it be wrong to demand an encounter from dungeon?

[原作] 大森藤ノ
(GA文庫／SBクリエイティブ)
[漫画] 九二枝
[キャラクター原案] ヤスダスズヒト

ダンジョンに出会いを間違っている。

Illustration/Kunieda
初出:ヤングガンガン
2015年 No.06
BELL CRANEL

初出:ヤングガンガン
2015年 No.07

©Fujino Omori / SB Creative Corp.

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか

Will it be wrong to demand an encounter from dungeon?

Contents

STEP31 少年と剣姫 ― 4
STEP32 剣姫の特訓 ― 21
STEP33 策謀の始まり ― 32
STEP34 パーティプレイ ― 54
STEP35 聖戦勃発 ― 79
STEP36 強襲 ― 101
STEP37 高みへ ― 127

［原作］大森藤ノ【GA文庫・SBクリエイティブ】 ［漫画］九二枝 ［キャラクター原案］ヤスダスズヒト

STEP 31 ▸▸ 少年と剣姫
ギルド本部
きょろ
きょろ
ベル君!?
あっ
こんにちは
エイナさ――

アイズ…
ヴァレン…
シュタイン
さん……!?
ドキン
すすす…
しいん…

えっ
ベル君!?
ちょっ
待ちなさいっ!
ニッ
何で!?
どうしてあの人が!?
一体何が起こってるんだ!?

いっっ!?
止まー――
れっ
ふ
ん

――っっ
――ごめんね
大丈夫？
っっ――すいませんっ!?
ズザァ
ベールーくーん……
何やってるのキミは！
ゼゼ
いきなり走り去るなんて失礼でしょ!?
エ エイナさん すいません……
ぬっ

そ それでこれは
一体どーいう
状況で……!?
はぁ……
ヴァレンシュタイン氏が
ベル君に用がある
そうなの
えっ？
ゴゴゴ
ズ
これっ……っ
ダンジョンの
10階層で
これを拾って……
直接返そうと
思って……
——そうかリリを
助けようとしたとき
この人が僕を
手助けしてくれてたんだ……

ベル君
後は二人で話をつけるんだよ
ま 待ってください!?
お願いですからまだここにいてくださいっ……!
僕、死んじゃいますっ!?
何言ってるの男の子でしょうっ
言わなきゃいけないことが沢山あるんだから
しっかり一人で伝えるっ
ぴっ
頑張るんだよ!
ひゃいっ!
……あの
……
ゴゴゴ
ひらひら

ごめんなさい
え……？
私が倒し損ねたミノタウロスのせいで君に迷惑をかけて……
ち 違います！
ずっと謝りたかった……
悪いのは迂闊に下層へもぐった僕でっ……
貴方はむしろ命の恩人で！

……謝らないといけないのは僕の方で……
お礼を言わずに散々逃げ回ったりして……
ご ごめんなさいっ！
その……えっと……
だからっ……
何度も助けていただいて……
本当にありがとうございました！

……
ああ
ニヤ…
ああ
ああっ！

……ダンジョン探索
もう10階層なんだよね？
すごいね

いいえっ
それは色んな人に協力
してもらったおかげでっ
ぼ、僕は全然まだまだで
目標にも全く手が
届かなくて……！

戦い方だって我流と
いうか素人というか
変なことして
やられそうになること
だってよくあってっ！

れた

れた

もっと強くならなくちゃ
いけないのに
とにかく全然
なっちゃいなくて

えーと…!?

……

……
それじゃあ
私が教えて
あげようか？

えっ……!?
どどうして
そんなこと……?
……強く
なりたそう
だからかな
私もその気持ち
わかるから
この人に
戦い方を教わる?
いいのかそれは
間違ってないか
それは
未だ全く釣り合っていない
僕がこの人と触れ合う
ような真似なんか——

短期間にそぐわない
確かな戦果と
目まぐるしい「成長」
……私自身のために
このままじゃ
申し訳が……
いやでも
せっかくの
善意……
ううん…
善意――だけじゃない
――知りたい
この子の「成長」の秘密を見極めたい

……あ あのヴァレンシュタインさん…
ニニ
ぐっ
ご ご教授をよろしくお願いします！
ば

……うん
……
彼の期待に
応えよう
よろしく
お願いします

ぴっ

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

STEP 32 ▸▸ 剣姫の特訓
……おはよう

おはようございます！
ヴァレンシュタインさん！
もうすぐ「遠征」だから時間あまり取れなくて……
早速 特訓始めようか？
はい！
えっとヴァレンシュタインさん――
……アイズ
アイズでいいよ
ごめんねこんなところに呼び出して……
いいえ
大丈夫ですっ！

みんな私のこと
そう呼ぶから
……それとも
嫌だった？
い 嫌じゃない
ですよっ！
ア アイズさん
僕はこれから
何をすればいいですか？
昨日からずっと
考えて…
いたんだけど
……
素振りして
みようか
あ……
はいはい
…何を
しようか
えっ

ブンッ
ブンッ
ブンッ
ビュッ
ブオン
……
君はナイフだけしか使わないの？
えっ？
私が知ってるナイフを使う人は蹴りや体術も使うから
かして
……こう
【アンダさんのおすすめ本……？】
ヒキ
ヒキ
ヒキ
ズウ

キィィ
アッ
へ？
キィ
んッ
ドサッ

ゴゴゴ
……ッ
ア……
アイス
さ……
ぷ
ぷ
あ
ごめん……

立てる？
はっはい……

…やっぱり
戦おう

これが一番
いいと思う

私はリヴェリア様
みたいに上手く
教えられないから……
コソ

ゲッ

今君が反応した通り
これから始めることの中で
色々なことを感じてほしい
……!?
うん……
それでいいよ
動けない…!
どう攻めても
八つ裂きに
される光景しか
見えない……っ

……
……君は臆病だね
でも
君が何に怯えているかわからないけど……
それ以外にも君は何かに怯えている
っ!?
ソロでダンジョンにもぐるなら臆病でいることは大切なことだと思う
多分君はその時が来たら逃げ出すことしかできない
うっ

STEP 33 ▸▸ 策謀の始まり

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

君が何に怯えているかわからないけど……
多分君はその時が来たら逃げ出すことしかできない
う……
うあ……

うあああッ!!
駄目だよ
がっ!

無鉄砲になっちゃ駄目
ダンジョンでは絶対にやっちゃいけないこと
あぐっ
立てる？
……っ！
グッ
痛みにも慣れてないんだね…
でもそれなら尚更痛みを怖がっちゃ駄目

ゴッ
うぐっ…
知ってた
知っていたけど……
この人
めちゃくちゃ
速いし……
何より…
立てる？
強い!!

ダンジョン17階層
この階層にとどまるのも久しいな……
…嫉妬か
オッタルは何も思わないの？

私はあの子に
夢中になっていて
既にいる【ファミリア】の
貴方達を放ってばっかり
もし あの子が
貴方より強くなったら
どうするのかしら？
……
私は貴方よりあの子を
重宝するようになる
かもしれないわ
貴方の今いるその
場所を取り上げて
代わりにあの子をすげ替える
かもしれないのよ

フレイヤ様のお心のままに
あら 拓かないの？
貴方の愛はみなに平等です
特別はあれ 優劣はない
私がこの場から姿を消したとしても
貴方の愛は消えないと確信しております
……出過ぎた言葉を

構わないわ

むしろ益々愛おしく
思えてきたわ
貴方のこと――

神フレイヤは大地を撫でる
風のような存在だ

風は縛られない
独占できない
とどめられない

何より風は伴侶を求めない
風は平等なのだ

ただ風の焦がれる
空が現れたなら――

……青い

ドゥ…

ザッ

…む

ド…
ドスッ
ドズン
ドズン
イ…
ウゥ
ウゥ…

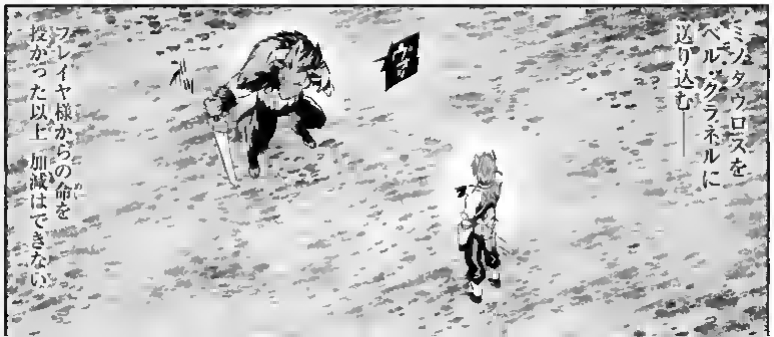
出たか
ミノタウロス

ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ

ゲホ!?
上々だ
お前に決めたぞ

そのままぶつけてもいいが先程の動きなら……！
ゴゲ…
ズゴ…
ゴゴ…

問題ない
使いこなしてみせろ
ギュン
ドガン


ミノタウロスをベル・クラネルに辿り込む――
フレイヤ様からの命を授かった以上、加減はできない。

これは儀礼ではない
洗礼だ
ベル・クラネルよ
あの御方の寵愛を
受けるというのなら
超えてみせろ
ゴッ

だっ
う
……
今は追うだけでもいい
相手の動きを読めるようになって…

冒険者は「恩恵（ファルナ）」に
寄りかかり過ぎている
もし【ステイタス】を
失っても
君の中に残るもの

それを
鍛えてあげたい
君は防御することが苦手みたいだね
この特訓の間に私の攻撃を読んで防げるようになれば君の言う目標にも近づけると思う

立てる？
ぐぐ…
そうだ…
僕は少しでも……
貴方に近づきたい——
ッッ…
お願いしますっ!!

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

ぴょこっ
あ あのっ……
やっぱり変ですか？
【ソーマ・ファミリア】に
見つからないように
かなり変えて
みたんですけど……
変じゃないよ
リリ
いつもと違って
何だか新鮮……
なのかな？
僕は可愛いと思うよ？
ほ 本当
ですかっ？
ぴーんっ

うん
叫合ってる
ほわーん
尻尾(しっぽ)動いてる…
無意識なのかな
うわー
癒やされるー
ウン
バ
ギッ!

キィッ!
ハッ
キィィ
キィ
インプですベル様っ
うんっ……
やるぞ!
キィッ
ガガガ

全ッ
然ッ
のろいッ！
―あの人の足もとにも及ばない！

ヤバい！
ギギ
ヒュン
ヒュン
ヒュン

ふっ!!
ベル様
後ろからっ!
ズ
ズ
ズ

ふぁぁ……
ベル様
すごい！

！

見るにも値しないと思われているのなら…
リリは心外いですッ！
——パーティプレイ!!

今の僕は
一人じゃない！
ドン
ギィ…
ズザ…
ギィ…
ギィィィ
ドドドド
！

あぶない！
シャアア
ヒュン
ギギギ
ボスン
いかがでしょうか
パープル・モスの
毒袋は
ご苦労様です
ギッ…
ケホケホ…

ベル様っ！
合点！
ボフゥッ
ズバーン
ドーン

っ……！
少々すごいのが来ましたね
……ちょっと多いね？
あおまで群れるなんて珍しいです
はい
オークだけでもりりが引き付けましょうか？
うぬー

……
ベル様？
ドドドド…
ガーン
少し頼り過ぎちゃってる気もするけど…
あっ
そっか

ファイアボルト！

お見事です
ベル様！
あのー
お聞きしたいことが
あったのですが…
……
どうしてこの頃
ダンジョンにもぐる前から
ボロボロなんですか？
戦闘でダメージ
うけてませんよね？
ギクリ
はははっ…
ちょっとね
アイズさんとの過酷な特訓で
毎回ズタボロにされてる
なんて無様なことを…
言えない……
言いたくない……

そのかげで【ステイタス】の耐久値が上がってきてるんだけど……
【ステイタス】かぁ……
…リリは
これから【ステイタス】を更新できないんだよね？
？
何か言いました？
……はい
リリは【ソーマ・ファミリア】に死んだように見せかけていますから
【ステイタス】更新のために主神様に会うことができません
改宗できればいいんだけど……
——【ヘスティア・ファミリア】に入れれば……

仕方ありません
リリが【ソーマ・ファミリア】を抜けるにはおそらく大量のお金が必要になります
とても今すぐにとはいきませんし……

主神様の協力が得られないのなら
「恩恵（ファルナ）」の引き継ぎもできなくなってしまいます

実を言うと【ステイタス】に関しては多少思うことはあるのですが……
でもまあ 今はまだ大丈夫ですよ
モンスターのあしらい方ならリリは得意ですし……
【ソーマ・ファミリア】で【ステイタス】を更新するには
資金集めのノルマを達成しなければいけません
その証拠にここ半年近くリリは【ステイタス】の更新をしてませんから
は 半年!?

リリはノルマには届いていましたがあまり目立ちたくなかったのでお金は献上していませんでした
碌にお金を持っていないと周りの目を欺くためです【ステイタス】が更新できなかったのはその弊害ですかね……
リリは誰も彼も瞞すような真似をしていました
リリは嘘の塊だったんです…
こんなリリをベル様は――
軽蔑しますか？
ペコン
……

素直になれない人を
軽蔑するのは
僕には難しい
かな
僕 リリのことが
好きだから
だから軽蔑なんて
できっこないし
嫌いにも
なれないよ
どっ
どういう意味か
なんてわかって
ますけど……
こわ

ベル様の声は
心に響く鐘の音の
ようですね……
ポッ
えっ？
今なんて？
？
なんでも
ないですよー

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

ねえ リリ
僕 魔法に依存
しちゃってるかな？
にが…
むぐ
むぐ
うぐぐん
リリはそこまで
気にはなりませんが……
確かにベル様の魔法は
使いやすい節もありますね……
はも
はも
【ファイアボルト】は
「速攻魔法」です
詠唱…いわゆる
溜めがないので
手軽に使って
しまってるのは
あるかもしれません

依存というよりベル様の動作の一部になっているという感じでしょうか？

そう言われてみると……

しっくりくる気がする

ばっ

こう考えるとベル様の魔法は効率性に富んだ分必殺としての一面が見劣りするのかもしれませんね

必殺……

魔法とは本来切り札です

長文詠唱型などの強力な魔法は時間がかかる分格上を撃退することも可能です

まさに起死回生の一手ですね

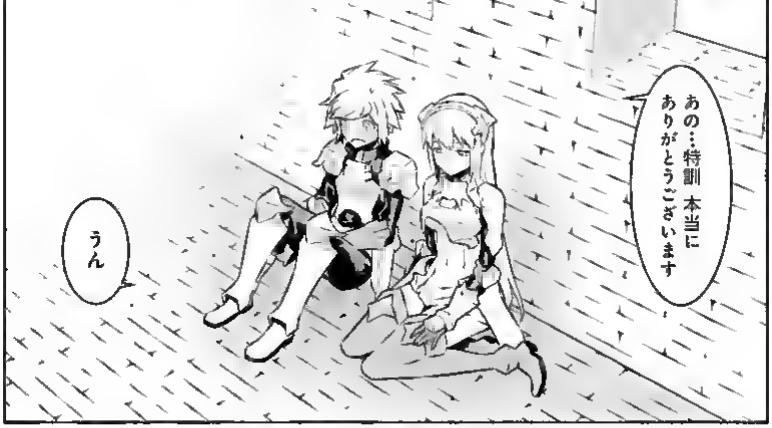
つまり僕の魔法にはその力がない……？

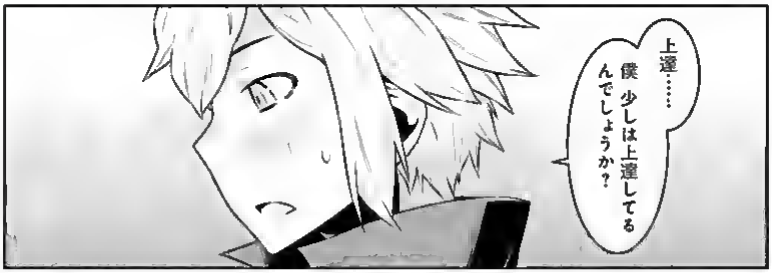
いえ そういうわけでは
ありません
ベル様の魔法の発動速度は
侮れないものがありますし……
少なくともリリは
時間をかける特大の
一発より
瞬時に連射してくるベル様の
「ファイアボルト」の方が
怖いです 逃げ切れませんから
うーん……
でもやっぱり
耐久力の高い相手だと
きつそうだなぁ……
ベル様
フキフキ
魔法を使えば「魔力」が上がる
魔力が上がれば魔法は強くなる
ベル様の今の魔法は
単純で威力も平凡かも
しれませんが
成長性はピカ一です！
自信を持って
ください！
リリ…
うん ありがとう！

STEP 35 ▸▸ 聖戦勃発

……
どこ……ここ
……そうか
ズキ
またアイズさんに
何もできずにのされちゃった
のか……
ああもう
何度目だろう
情けない……
ほあぁ!?

アイズさんっ!?
大丈夫？
だっ
あ
うえっ!?
まだ休む？
……ッ
体は平気……みたいだね
……はい


あの…特訓 本当にありがとうございます
うん


上達……
僕 少しは上達してるんでしょうか？

……
どうして？
いえ その
最近気を失って
ばかりなんで……

君はちゃんと変わってるよ
びっくりしちゃうくらい
君が気絶しちゃうのは
私が力加減を間違えて
いるだけだから……
いっいえっ
そんなことは!?

あっ
結構落ち込んでいる……
最近少しわかってきた
美しくどこか崇高な【剣姫】
高過ぎる高嶺の花
それは変わりない筈なのに――
こんなちょっとしたことで落ち込む姿は
まるで普通の女の子みたいで
――
……
聞いてもいい？

えっ
な
なんでしょう!?
つよく……?
どうして君は
そんなに早く
強くなっていけるの?
そんな僕なんて
まだまだで……
でも
えっと……
僕が強くなろう
としているのは
……
どうしても
追いつきたい
人がいて……
その人を必死に
追いかけていたら
いつの間にかここまで
来てて その……

何がなんでも
辿り着きたい場所が
あるから
……だと思います
……わかるよ
私も――
ゴォーン

ゴォーン
ゴォーン
……
正午の鐘……
もうお昼なんだね
あっ
そうですね……？
ふぁ～…
……今から
お昼寝の訓練をしようか
は？

ダンジョンじゃあいつでもどこでもすぐに戻れるようにしないといけないから……
……
あの……
もしかして眠いんですか？
……
訓練だよ
はいっ
はいっ
えーと……ここで寝るんですか？
うん ほら ここに……

へ……
変なことに
なってしまった……
す……
早い！
もう寝てる……
流石（？）
第一級冒険者

……
ヘルけ
行くのだ
ベルよ！
口付け
じゃ――
ぐぐっ
――って
ちょっとちょっとおお!?
ぐぐっ
何!?
ギギギ…

え!?
おじいちゃん!?
行けぇーいっ
待つんだベル君っ!
ぬおおお

かっ
神様――!?
この浮気者ッ!
その娘と口づけは
だめぇ!
絶対に
許さない!
絶対にだ!!
ケ…
さっさと
離れ

ここから先は……
聖戦なりいい!!

ぐあああああっ!!

神様(ひかり)が祖父(じじい)に負けたー!?
にっはっは～
さあベルよ

待っ……
てて……
110
待ってて……？
ね寝言……？
良かった
バレてなくて……
バレてなくて……
じゃない!?

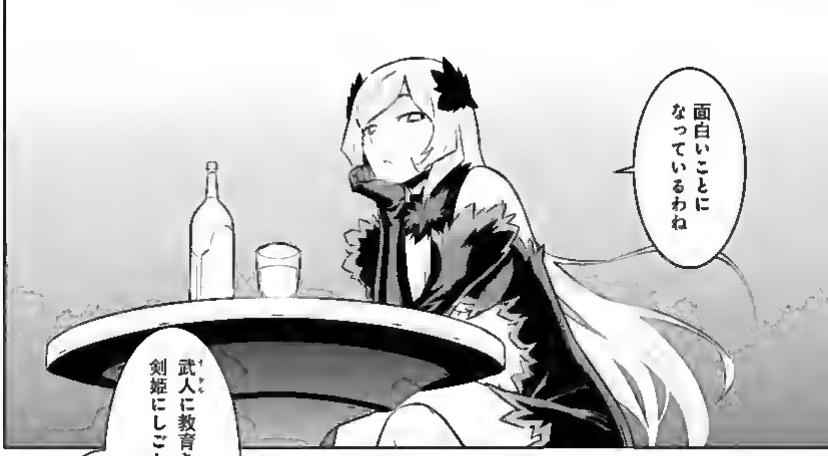
こうしてこの人の隣にいることが——

時間を共有していることが——

やっぱり
夢みたいだ……
ゴロン
アイズさんの
寝顔は――
呪いをかけられ 英雄が
現れるまで目を覚まさない
永遠の眠り姫
それが今 穏やかに寝息を立てる
憧れの人と重なって見えた

ダンジョンに出会いを間違っている？

それにしても……


面白いことになっているわね

武人に教育される怪物と剣姫にしごかれる少年……
予想以上の見ものになるかもしれない……

……

また少しちょっかいを出してみようかしら――

アイズさん
すみません……
どうしても
お腹が……
大丈夫 私も
お腹が空いたから
それで あの
どこに向って
いるんですか？
北のメインストリート
ほらアソコ
ジャガ丸くんのお店が
あるってティオナに
教えてもらったから
え……
いや子供が…
ジャガ丸くん……？

いらっしゃいませぇ
せえええっ!?
べっ……
ベル君……？

何をやっているんだ
君はぁあああああっ!?

よりにもよって【剣姫】と一緒なんて一体どういうことだベル君!?
ズンズンズンズン
そ それがっ これには深いわけがあって……
ご託はいい
ええい 離れるんだっ!
早く説明するんだ!
神の前では嘘はフけーんッ!!
たっ たまたま すぐそこで出会って
あの…… 私が戦い方を教えています

まさか例の成長速度に
Ⅱをつけられた!?
ばっ
ボクのベル君に唾をつけて
おこうとしたって
そうはいかないぞ!
何て言ったって
ボクの方が先だからな!
ヴァレン某君
ボクのベル君に
もう関わらないでくれ
君にだって
立場があるだろう?
お互いのためにも
これが――
お願いです
神様っ!
いにゃっ!?
がしっ
もう少し
だけ……っ
あと二日で
いいんです!
アイズさんとの
特訓を許して
ください!

ダンジョンでもっとお金を稼げるように力をつけてきます！
ばっ
だからっ……！
むぅ……
……
はぁ
とことん甘いよなぁボクも……
……本当にあと二日間だけだぜ？
神様……！
言っておくけど――

ベル君に変な真似をしたらその時点でこの話はなかったことにする
誘惑なんてもっての他だからなぁ……！
か 神様っ
はい……
……？
それじゃあ今日はボクも君達の特訓を見物させてもらおうかな
え えーっと バイトはどうするんですか……？
今日はもう上がる！
休んでるんだぜ！
……
……はい
優しい神様だね……

なあベル君
君はボコボコにされているだけじゃないか？
もう止めてしまおうぜ 君は体のいいサンドバック代わりなんだよ
ああの神様……そろそろ手を離しても……
いやいやここは薄暗いからね！
あぶないから！
確かに暗いですけど……
……？
ボロ…
あの魔石街灯壊されて……？

はっ
ズ……

え……

ヒュ!!
キャットピープル……？

ッッ!?
!?

ヒュオ!!!

お……
おいおいおいっ!?
……っ

速すぎる……!?
動きが全く捉えられない!!
ちッ……
化け物が
ベル君
帰ろう
ボク達の出る幕
じゃない……
あの人達……
たぶん第二級冒険者だ
その攻撃をアイズさんは
たった一人で
凌ぎ切っている……
あれが【剣姫】
次元が違い過ぎる!

あっ!?
ベル君!
神様 僕の後ろにっ!
!?
この動き 相手も僕と同じLv.1——!
——見える!?

はあぁッ！
あ!?

大剣――
使えた！
ふりまわされたけど……

僕だって戦えるんだ……!!
いくぞッ！

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

アイズさんっ！
【ファイアボルト】!!

ゴォォォ!!!
ぐっ……
ゴォォォォ…
――詠唱を抜いて魔法を撃ちやがった……
あの方にご報告だなきっと喜ばれる
ゴォ

……
目立ち過ぎた もう十分だ 退くぞ
全く効いていない……
これが上位冒険者との隔たり……
ハァ ハァ
かっ
かっこ良かったよ ベルくーん！
わっ ちょっ 神様ー!?
ばあ
怪我はない？
あ 僕は大丈夫です アイズさんは……
私も平気だよ

あの人達
何だったんで
しょう？
いきなり
襲ってきて……
闇討ちは良くあるよ
あるんですか!?
うん
ダンジョンの外では
珍しいけど……
しかし
解せないなぁ
どうしてベル君まで
襲われたんだい？
ヴァレン某君
何か心当たりは？
……
あり過ぎて
逆に
ほとほと物騒だなぁ
ロキのところは
ゴメンなさい……
しゅん
うっ！
ま まあいいさ
それよりここから
早く離れよう
ぐらぐら
あの神様
そろそろ
離して——

ん？
どうかしたのかい
ベル君？
……
いえ……
――っ!?

Lv.6……
アイズさんが……!?
本当に少し前だったかな
ヴァレンシュタイン氏が【ランクアップ】したって公式発表されたのは……

階層主……「迷宮の孤王」を
一人で倒しちゃったらしいんだ
下層域より更に下の
「深層」のダンジョンで……

「迷宮の孤王」……
大規模のパーティで攻略しにかかる、いわばモンスターの親玉だ
そんな存在を
たった一人で……？

あのね 今回のことは
気にしなくて
いいと思う……
ってどこ行くの
ベル君!?

つっ
あ すいません……
ぼうっとしちゃって
今日はもう
帰ります

……
ベル君……
大丈夫かな

エイナさんには強がってみせたけど……
やっぱりショックは大きい
もともと遠かった背中だけど……
さらに遠くなっちゃったな……
はぁ…
シ シルさん…？
ガバッ
ギャー
――ベルさん！会いたかった！

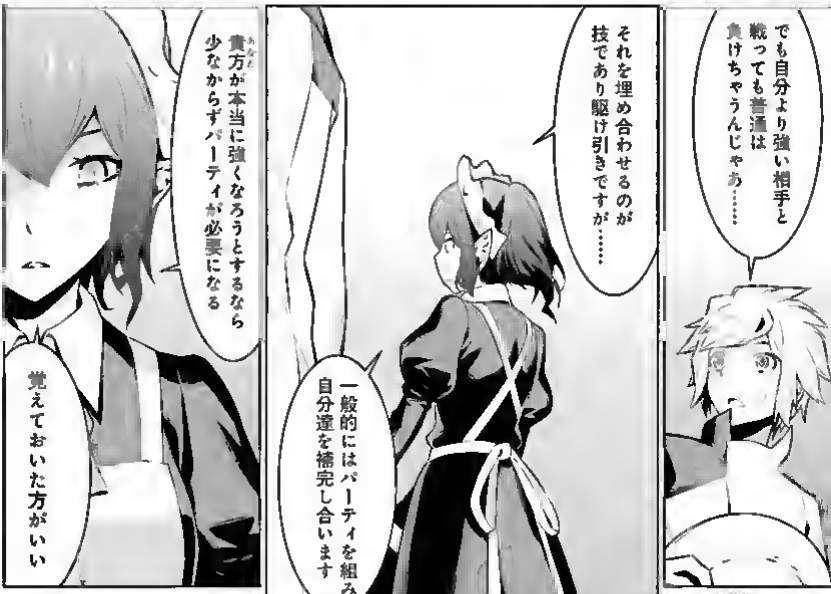
……
キュッ…
キュッ…
ごめんなさーい
私の仕事を手伝って
もらって！
無理矢理じゃ
ないですかっ！
おら
とっとと働くニャ
白髪頭
少年はシルに
売られたニャ
観念するニャ
まあ今だって
ラスナを作って
もらってるんだから
これくらいは
いんしょう……！
この量は凶悪だ
手伝いましょう
クラネルさん

リューさん！
手伝って
くれるんですか？
もともとは
こちらの問題ですから
申し訳ありません
クラネルさん
いいやいやいやっ
そんなっ……!?
何かあったの
ですか？
えっ――
差し出がましいかも
しれませんが気落ちして
いるように見えたので
私でよければ
話は聞きますが
……
あの
リューさんは
……
冒険者だった
んですか？
……はい
昔の話ですが
それが何か？

Lv.の上昇……
【ランクアップ】ってどうすればできるんですか？
……
己自身より強大な相手の打破
より上位の【経験値（エクスピア）】を手に入れ一定量を超過すること
それがLv.上昇の条件です
偉業を成し遂げればいい
人も神々さえも讃える功績の達成を

Lv.の上昇は
心身の強化
——器の進化
と同義です
そして神々の「恩恵」は
試練を乗り越えた者にしか
高位の資格を与えません

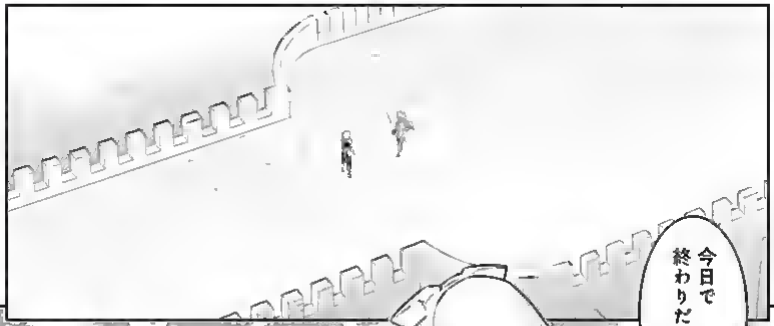
それじゃあ
能力値って
いうのは……
ええ
極論それまで築き
あげてきた能力値は
偉業を成し遂げる
ための礎でしかない


でも自分より強い相手と
戦っても普通は
負けちゃうんじゃあ……
それを埋め合わせるのが
技であり駆け引きですが……
一般的にはパーティを組み
自分達を補完し合います
貴方が本当に強くなろうとするなら
少なからずパーティが必要になる
覚えておいた方がいい

ここからは老婆心になりますが……
クラネルさん
人の数だけそれぞれの冒険には意味があります
その意味から目を逸らさないでください
貴方は冒険者だ
貴方が望むものは恐らくその先でしか手に入れることはできないと思います
はぁ……
……いえ
あまり気にしないでください
私の勤はよく外れる

ベルさん 今日は
ごめんなさい…
本当にありがとう
ございました！
ちょっと
いえ
シルさんにはお世話に
なってますから
……あの
ベルさん
……冒険はしなくても
いいんじゃないでしょうか

無理はなさらないでください
何だかそれだけは伝えたくて
……
……今更怖気付くなんて
すいません 変なことを言いました
ご昼食また作っておきますね
貴方は冒険者だ
冒険者は冒険しちゃいけない
それはきっと対極の意味をもつ二つの言葉——



今日で
終わりだね……
はい……
今日まで
ありがとうございました

——やっぱり
僕は追いかけたい
……行くよ
脱気ながら見えて
しまった背中は
絶望してしまうほどに
遠いけど——

はいっ！
あの高みへ

もう一度手を
伸ばすんだ!!

ダンジョンに出会いを求めるのは間違っている。

大森藤ノ先生書きおろし小説

特別章

姉離れ？弟離れ？

著／大森藤ノ
イラスト ヤスダスズヒト

「ねぇねぇ、エイナの弟くん、絶好調じゃん！」

正午を過ぎて間もない昼下がりのことだった。

ギルド本部の大理石ロビー、その窓口で業務をこなしていたエイナに、同じ受付嬢である同僚ミィシャ・フロットが声をかけてきた。

「弟くん……？」

「エイナの担当冒険者君だって！　あの髪が白くて赤い目の、兎みたいな！　冒険者達の間じゃあ流石に取り沙汰されてないけど、職員の中じゃあちょっと話題になってるよ～！」

学生時代からの友人であるミィシャは、その桜色の頭髪と小柄な体を揺らしながら面白おかしそうにエイナが担当官を務める冒険者、ベル・クラネルについて語った。

ベルはこの一ヶ月で破竹の『成長』を見せている。実力の指標としてよく見られるダンジョンの到達階層を次々に増やしているのだ。

駆け出しである筈の少年冒険者の快進撃には、ミィシャの言う通り目を見張るものがある。

「あの子、ソロのままなんでしょ？　他の冒険者達に付いていった訳でもないのに、どんどん迷宮を攻略していって……今じゃあもう10階層！　みんなすごいって言ってるよ!?」

管理機関には各冒険者の情報や到達階層の記録が集められる。最新資料は逐一更新されるので、ギルド職員には冒険者の実力や状況、功績等の情報が筒抜けなのだ。興奮した語調のミィシャにエイナは何も答えられず、むしろ渋い表情を浮かべてしまう。

原因は定かではないが、ベルの『成長』は速過ぎる。着実に迷宮攻略を進めて経験を積んでいってほしいと願うエイナにしてみれば、賞賛より心配の気持ちの方が勝ってしまうほど。

往々にして、順調に物事が進んでいる時ほどダンジョンでは『落とし穴』にはまりやすい。

「このままなら、昇格もして『中層』の13階層にもすぐ行っちゃうんじゃない？」

「――行かせないよ、『中層』なんて絶対」

ミィシャの発言に、エイナは目を瞑りながらぴしゃりと告げた。

目を白黒させる同僚を前に、厳しい態度で、同時に過保護にも取れる口振りで声を続ける。

「いくら成長期だからって、昇格できるかは別の話だし……そもそも昇格とか、『中層』とか、まだ全然先の話だよ。ベル君、危なかっしいところが一杯あるし……」

この間だってサポーターの子を助けるために無茶をして、とエイナは目を伏せる。そして「とにかく、ソロのままじゃあ昇格しようが絶対に『中層』になんか行かせないから」と彼女が告げると、ミィシャは「なんか前にもこんな話した気がするー」と苦笑した。

「でもでも、いつかはパーティを組むようになるでしょ？　どうする、13階層からぴょーんって18階層まで行っちゃったら？　安全階層まで行けばエイナの賞与、きっと上がっちゃうよ？」

「あはは、ないない」

流石にそれは、とエイナは笑い飛ばした。

その直後。

ざわっ、と本部内が一瞬ざわめく。数が少ない冒険者や職員達、周囲の反応にエイナが顔を上げると、ロビーの出入り口には一人の少女が現れていた。

女神にも劣らない美しい金髪金眼の容姿に、エイナは他の者達と同様に驚いてしまう。

誰かを探す素振りを見せていた少女は、エイナと目が合ったかと思うと、真っ直ぐこちらに向かってきた。

「……ヴァレンシュタイン氏？」

「おはよう、ございます」

窓口前で足を止めた第一級冒険者、アイズ・ヴァレンシュタインは挨拶をしてくる。

【ロキ・ファミリア】のリヴェリアの紹介のもと、先日交流したばかりの相手にエイナが不思議そうな顔をしていると、アイズは意を決したように話し始めた。

「あの、貴方の担当冒険者に……返したいものが、あって……」

最初は首を傾げていたエイナも、アイズが差し出した防具を見て疑問が氷解した。包み込まれていた白布から現れたのは、緑玉色のプロテクターである。以前、ベルの防具の貧相振りを見て心配したエイナが彼に贈った品である。

口数が少なかった筈のアイズは不器用ながらも具体的に説明してきた。エイナの依頼で少女の揉め事に巻き込まれるベルを助けにいった三日前、10階層で『オーク』に襲われていた彼はこのプロテクターを落としていったのだと。

猛牛の事件から始まった少年との関係をあらかた喋り終えた少女は胸に手を置いて、ふう、と息をついた。彼女の様子にエイナは微笑ましさを感じながら、「わかりました」と頷く。

「私から、ベル君……ベル・クラネルにプロテクターをお渡しします。お話の方も伝えておきますので」

ミィシャが気を利かせて隣から離れていく中、目の前にいるアイズは、どこか強張った顔で——ともすれば緊張しているような面持ちで——口を開いた。

「あの……」

「？」

「……直接、返したいんです」

一度顔をうつむけ、アイズは己の意思を伝えてきた。

猛牛の一件から迷惑をかけ、傷付けてしまったベルに自ら防具を返し、今までのことを謝りたい——いつも逃げてしまう兎のような少年に、今度こそは謝罪を告げたいのだと。

こちらの瞳を見つめながら、たどたどしく、そしておずおずと懇願してくるアイズに、エイナは眼鏡をかけ直し、真剣な表情で頷いた。

「わかりました。では、私も協力します」

「？」

「彼が逃げ出さないように、いえ逃げ出せないように、場を設けます。きちんと面と向かわせます

ので」

まるで保護者、いや面倒見の良い姉のような口調でエイナはアイズに提案する。

「全く失礼なっ。申し訳ありません、ヴァレンシュタイン氏、彼の数々の非礼を私からもお詫びします」

顔を合わせれば逃げ出すという無礼千万のベルにエイナが憤っていると、アイズはクスリと微笑を漏らした。彼女と笑みを交わしながら、今後のことについて打ち合わせを始める。

「では、私が彼を一室に閉じ込めますので、その後ヴァレンシュタイン氏も入ってきてください。逃げ場がなくなってしまえばこちらのものですから」

「えっと……いいんですか？　騙すような真似を……その」

「いいんですっ。これくらいやらないと」

そして、【ロキ・ファミリア】の『遠征』前にエイナ同伴のもと、面談用ボックスにベルを閉じ込めてアイズが強襲する、という計画を真摯かつ前向きに検討していた時だった。

エイナの瞳は自分の正面、アイズの後方から近付いてくる人影に気付く。

はっと肩を揺り動かすと、アイズもまた振り向いて、その人物を視認してしまった。

白髪の少年。ベル・クラネルである。

「……」

「……」

「……」

何という時機で、と三者三様に固まる空間の中でエイナが思っていると。

間を置かず、ベルはこちらに背を向けて、逃げ出した。

「べ、ベル君!?　待ちなさい！」

全力逃走を行う少年にエイナは声を飛ばす。しかしその背中は振り向きもしない。

――もう、本当に手がかかる！

思わず胸の中で叫びながら、エイナは呆然と固まっているアイズに呼びかけた。

「追ってください、ヴァレンシュタイン氏!?」

エイナの呼びかけに、はっ、とアイズは目を覚ます。

そして次の瞬間、エイナが仰天するほどの勢いで【剣姫】は神速の風となり、逃すかとばかりに兎を捕獲した。

「――ベル君、後は二人で話をつけるんだよ」

ギルド本部の前庭で見事ベルが捕獲された後、エイナは彼にそう告げた。

真っ赤になって「ここにいてください!?」と言うベルに「言わなきゃいけないことが沢山あるん

だから、しっかり一人で伝えるっ」と厳しく告げて、アイズ達のもとから離れる。
そしてギルド本部内に戻ったエイナは――窓口から二人のことをずっと見守っていた。
少女の前で勢いよく頭を下げた少年を見て、ふっと頬を綻ばせる。
「エイナってさ、兄妹とか姉妹とか、いる？」
ベル達を見守り続けていると、近付いてきたミィシャが尋ねてきた。
「……妹が一人、いるけど」
それがどうしたの？　と首を傾げると、ミィシャは笑った。
「あの子を見てる時のエイナって、本当に弟を見ているような目をしてるからさ。放っておけないー、って。話す時もそう、怒ったり心配したりしてても、たまに口が優しく笑っている時、あるよ」
本当にお姉さんみたいだなって。
そう言って笑いかけてくるミィシャに、エイナは双眸を見開いた。
「付き添ってあげなくて良かったの？」
「……」
視線を戻せば、ベルは赤くなりながらあたふたとして、アイズに微笑まれたり話しかけられては更に赤面するを繰り返している。
どこか微笑ましげな二人の様子に、エイナはぽつりと言葉をこぼした。

「いいんだよ……いつまでも弟のままじゃあ、駄目なんだから」
いつまでも面倒は見切れない。
いや違う、いつかエイナの手を必要とせず、少年が自ら巣立つ時が必ずやって来る。
彼もまた、冒険者なのだから。
その約束の日を迎えて抱くだろう嬉しさと誇らしさ、そして寂しさを予見しながら。
エイナは、自分こそ弟離れしなくてはいけないのかもしれない、とそう思った。
真っ赤になりながら、それでも勇気を振り絞って少女に何かを頼み込んでいる少年の姿に、どこか寂しげに瞳を細める。
「弟のままじゃあ駄目だって……それじゃあエイナ、あの子が一人前になったら、遠慮なく手を出しちゃうんだ～？」
「なっ……ミィシャ!?」
「うひゃー、計算高ーい！」
からかってくるミィシャに、エイナは堪らず叫び声を上げる。
――姉離れ、弟離れした時、お互いの関係はどうなっているのだろう？
そんなことを心の片隅で考えながら、エイナは耳まで赤くしながら同僚を叱りつけた。

コミックス5巻、お買い上げありがとうございます。
この巻が発売になる頃にはアニメは佳境中の佳境！
いやー、動くベル、動くヘスティアに毎回興奮して動いていました。
最後まで原作ファンとして応援したいです！

さて、この巻はアイズとの修行がメインでした。
強くなっていくベルを描くのは本当に楽しかったです。
次巻はいよいよミノタウロスとの決戦です。
今から楽しみです!!

この見開きを大きく超える超絶迫力で
バトルを描ききりたいです!!

それでは、また次巻でよろしくお願いします！

九二枝

デジタル版　Ver.1.00

ヤングガンガンコミックス
ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか
5

2015年6月25日　Ver.1.00発行

原作/大森藤ノ（GA文庫／SBクリエイティブ）
キャラクター原案/ヤスダスズヒト
漫画/九二枝

©Fujino Omori / SB Creative Corp.
キャラクター原案 ヤスダスズヒト
©2015 Kunieda

装幀/Masataka Hamasaki [NARTI;S]

初出/ヤングガンガン 2015年No.06～No.12掲載

発行所
株式会社スクウェア・エニックス

担当編集
熊谷勇一

<ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ>
スクウェア・エニックス　サポートセンター　http://sqex.to/jp_manga_support

<ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、販売に関するお問い合わせ>
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

本作品は、作品のオリジナリティを尊重し、台詞や表現を発表当時のまま収録しています。
あくまで作品世界の中での表現であることをご理解ください。

本作品の内容の一部あるいは全部を、著作権者、出版権者等の許諾なく、
転載、複写、複製、公衆送信（放送、有線放送、インターネットへのアップロード）、
翻訳、翻案等を行うことは、著作権法上の例外を除き、法律で禁じられています。
これらの行為を行った場合、法律により刑事罰が科せられる可能性があります。

カバー折り返し

COMIC

九二枝

KUNIEDA

原作『ダンまち』は相変わらず面白いし
アニメ『ダンまち』のクオリティーは超凄い!!
今年もあと半分ですが、
原作、アニメに負けないように
頑張ります!!

Cover Design
Masataka Hamasaki [NARTI,S]

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録